

平成28年度九州地区知的障害者福祉協会
児童発達支援部会(熊本大会)
第1分科会実践報告

環境(人・物・空間)が変える子どもたちの未来
～小規模グループケア実践報告～



社会福祉法人 落穂会 あさひが丘学園
木場明典

はじめに

あさひが丘学園は昭和33年に開園され、58年を迎えた施設です。鹿児島県鹿児島市にあり、比較的温暖で過ごしやすい地域です。

平成28年7月1日より、念願でもあった小規模グループケアが始まりました。小規模グループケアにおける目的は、**家庭を離れて生活している子ども達の豊かな「育ち」を支えるために、愛情を持って丁寧な暮らしが営めるよう支援することです。**

障害児入所施設については、「子どもが育つ環境を整える子どもの施設」「子ども本人が望む暮らしを保障する施設」といった**幼児期からの子どもの育ち、発達に係る基本的な観点から、より家庭に近い生活環境、少人数の生活の場、普通の暮らしの環境、個々に配慮した生活環境**とすべきであり小規模グループケアの推進が必要とされている。

【厚生労働省 障害児支援の在り方に関する検討会報告書より抜粋】

本日の報告の流れ

テーマ「環境(人・物・空間)が変える子ども達の未来」

- ① あさひが丘学園の概況
- ② 環境の変化
- ③ 子ども達・職員の変化
- ④ 今後の課題

① あさひが丘学園の概況

あさひが丘学園 所在地



あさひが丘学園 外観



あさひが丘学園 ユニット外観



あさひが丘学園の事業

社会福祉法人 落穂会

◇障害児入所施設 あさひが丘学園

◇障害者支援施設 あさひが丘（施設入所支援・生活介護）

◇地域生活支援センター あさひが丘

○児童発達支援センター「歩路」

○ワークショップあすもね（就労継続支援B型）

○ヘルパーステーションとわ（居宅介護・行動援護・移動支援）

○グループホームあさひが丘（介護サービス包括型共同生活援助）

○あさひが丘相談支援センター（指定一般・特定・障害児相談支援事業）

○シュバル（放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）

◇ガーデンキッズセルク（児童発達支援事業・保育所等訪問支援）

◇ガーデンキッズトリア（児童発達支援事業・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援）

◇あさひが丘が乗馬倶楽部シュバル（ホースセラピー・一般乗馬）

経営理念

「共生と共創」

(だれもが「生まれてきてよかった」と思える共生社会を実現する)

- ①知的発達障害を持つ人の基本的人権を尊重し、その人なりの自己実現を図り、より豊かな人生を送ることができるよう支援する。(エンパワメント)
- ②利用者の主体性を尊重し、本人・家族の期待に応えられるよう努める。(主体性尊重)
- ③地域社会のなかの重要な社会資源であることを認識し、常に開拓的精神をもって地域福祉の向上に寄与する。
(フロンティア精神)
- ④本人・家族・職員の幸福な人生に寄与するために安定した施設経営に努める。(安定経営)

障害児入所施設 あさひが丘学園

定員28名・短期入所8名

現在入所:26名 契約:5名 措置:21名

○家庭を離れて生活している子ども達の豊かな「育ち」を支えるために、愛情を持って丁寧な暮らしが営めるよう支援します。

○小規模グループケアでは、ユニット内に居室(全室個室)、リビング、ダイニング、浴室、トイレ等を配置し、より家庭に近い環境で生活ができるように配慮しています。

○家庭的な雰囲気の中で子ども達と生活を共にしながら日々の暮らしの中で、退所後の生活を見据えたひとりひとりに応じた生活に役立つ社会的なルールやマナー、知識が身に付けられるよう支援します。

児童の状況

平成28年7月1日現在

1. 利用者年齢

	～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	19歳～	合計
男	1	4	5	7	0	17
女	0	1	5	3	0	9
合計	1	5	10	10	0	26
男性(最年少6歳7月・最年長18歳2月)						
女性(最年少7歳11月・最年長18歳7月)						

2. 入所時の年齢

	～6歳	7～12歳	13～15歳	16～18歳	合計
男	7	4	5	1	17
女	2	4	2	1	9
合計	9	8	7	2	26

3. 障害の状況(療育手帳所持状況)

区分		男	女	計	その他
最重度	A1	1	2	3	身体障害者手帳 6級 1名(聴覚) 4級 1名(聴覚) 3級 2名(両下肢) 2級 1名(両下肢)
重度	A2	1		1	
中度	B1	5	2	7	
軽度	B2	9	5	14	
未所持		1	0	1	
計		17	9	26	

4. 在園期間

期間	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	計	平均
男	4	1	2	7	3			17	3年2ヶ月
女	2	1	1	4		1		9	3年3ヶ月
計	6	2	3	11	3	1		26	3年3ヶ月

男性
(最短0年3ヶ月・最長7年11ヶ月)

女性
(最短0年3ヶ月・最長10年7ヶ月)

5. 学籍別状況

学年	小学校						計	中学校			計	高等学校			計	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年		1年	2年	3年		
男	2	1		2			5	1		2	3	5	2	2	9	17
女		1					1		3	2	5	1	1		3	9
計	2	0		2	0	0	6	1	3	4	8	6	3	2	11	25

6. 入所前の生活の場

	男	女	合計
自宅	6	4	10
児童養護施設	6	1	7
乳児院	4	1	5
母子生活支援施設	1	2	3
医療型 障害児入所施設	0	1	1
合計	17	9	26

7. 職員体制

	園長	副園長	サビ管	支援員	保育士	看護師	栄養士	事務員	業務員	計(延数)
あさひが丘学園	1	1	1	8	9	1	1	1	—	19
あさひが丘			2	52	—	1		2	4	64

8. 日課 登校時

時刻	児童部
6:15	起床 寝具整理・着替え・洗面
6:50	朝食
7:30	登校準備
7:45	養護学校登校 学校生活
16:10	帰園 おやつ・入浴①・洗濯等 自由時間
18:00	夕食
19:00	歯磨き・検温 入浴② 自由時間 就寝準備
21:00	21:00～22:00の間、各利用者の状況に応じて就寝

9. 日課 休校時

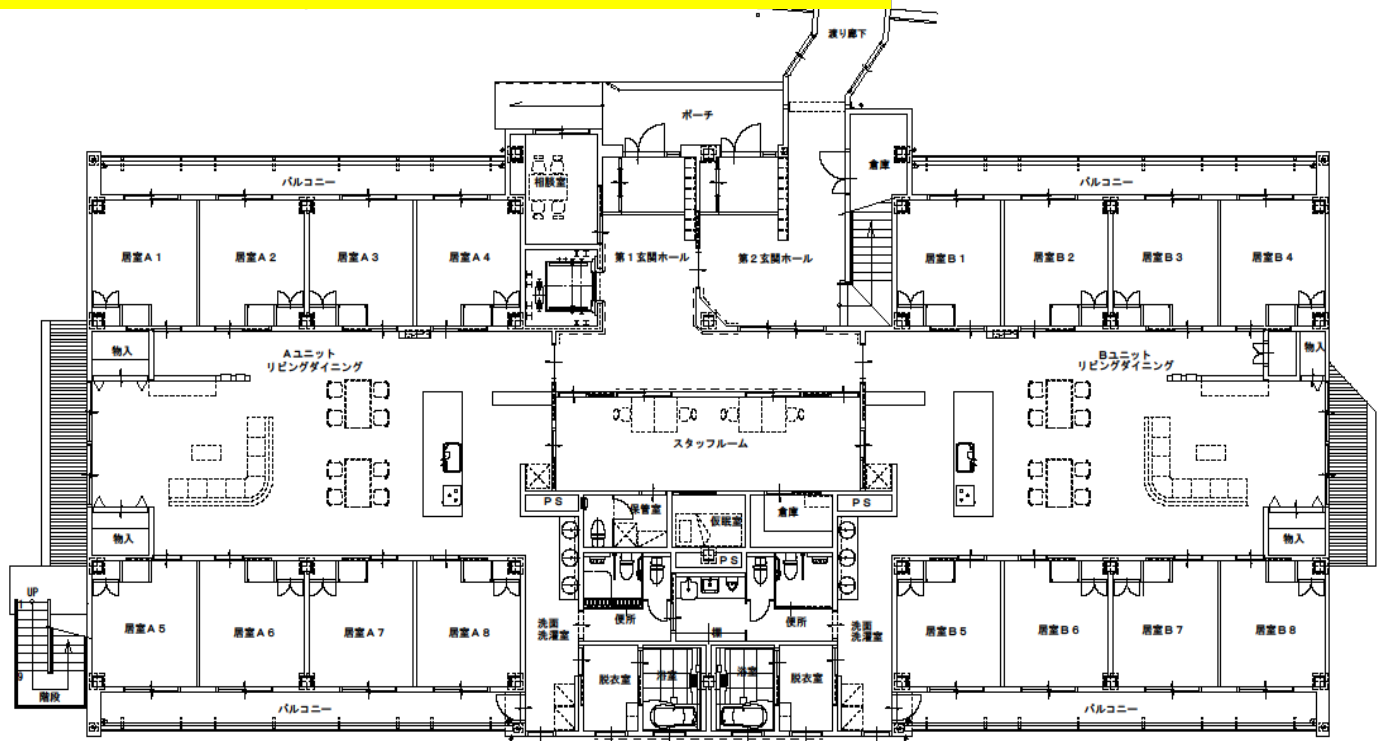
時刻	児童部
7:00	起床 寝具整理・着替え・洗面
7:45	朝食 自由時間 (宿題・掃除・余暇)
12:00	ドライブや買いもの
15:00	おやつ 入浴①・洗濯等 自由時間
18:00	夕食
19:00	歯磨き・検温 入浴② 自由時間 就寝準備
22:00	21:00～22:00の間、各利用者の状況に応じて 就寝

10. ユニット構成

○4ユニット 定員28名 短期入所8名
1ユニット定員7名 短期入所2名
居室数8(個室11.48m²) 合計4ユニット

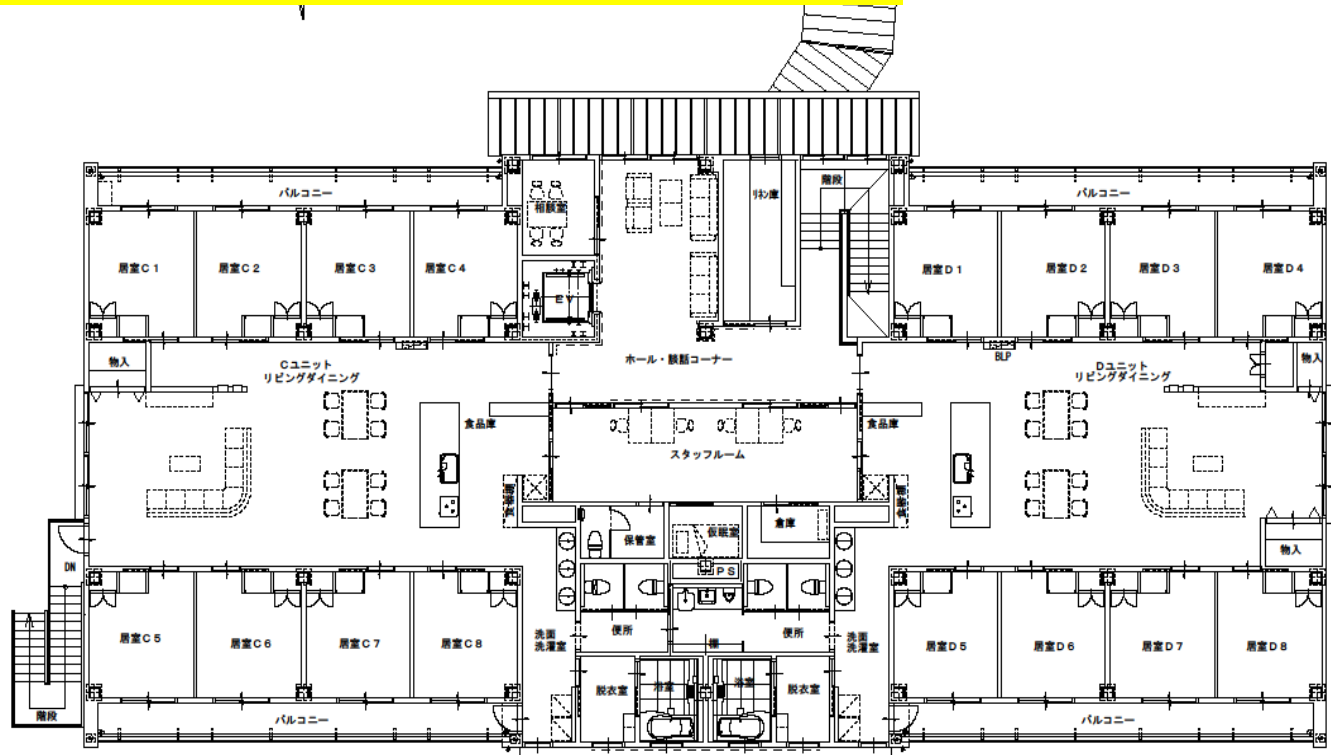
ユニット1階		ユニット2階	
Aユニット	Bユニット	Cユニット	Dユニット
定員7名	定員7名	定員7名	定員7名
短期入所 定員2名	短期入所 定員2名	短期入所 定員2名	短期入所 定員2名

あさひが丘学園 平面図1F



1階 平面図

あさひが丘学園 平面図2F



2階 平面図



キッチン

ダイニング



リビング



共有スペース





お風呂



トイレ

居室



小規模移行までにした事

- ①全国の小規模グループケアを実施している施設へ体験実習。
- ②**目的を明確化したうえで**ユニットの構成・職員勤務体系の考案
※子ども達の日課を中心に勤務体制を検討。
- ③**職員の勤務体系シミュレーション**
※行事引率(学校・余暇)、職員研修、年休取得が年間を通して確実に行える(取得)か。過重な業務では継続した支援には繋がらない。
- ④**子ども達のユニット分け**
(兄弟・姉妹・相性・年齢・性別)
- ⑤**必要備品関係の選定・購入**
※電化製品・日用品全て現場の職員が行いました。
- ⑥**新しい取り組みのマニュアル作成**
(事務・勤務・調理・余暇・イベント)
- ⑦**子ども達・職員への説明**
- ⑧**引っ越しの計画**

② 環境(人・物・空間)の変化

環境

人 → 子ども達・職員

物 → 生活用品（日用品）

空間 → 生活空間

1. 人(配置)の変化

旧体制

【子ども達】

定員40名。1棟20名が2棟。居室は2人～4人。

【職員】1棟8名～9名。

1日5名(早出2名遅出2名 夜勤1名)体制

ユニット

4ユニット(1ユニット7名の利用者・合計26名)の構成。

【職員配置】1ユニット3人固定+1名

1日基本断続勤務1名+宿直者(1名共通)

職員配置 1ユニット3人固定+1名

ユニット1階		ユニット2階	
Aユニット	Bユニット	Cユニット	Dユニット
チーフ		チーフ	
サブチーフ		サブチーフ	
職員①	職員①	職員①	職員①
職員②	職員②	職員②	職員②
職員③	職員③	職員③	職員③
フリー職員			
利用者	利用者	利用者	利用者

利用者・職員の配置

職員配置 (17名) + 児童発達支援管理責任者 (1名)

ユニット 1階		ユニット 2階	
Aユニット	Bユニット	Cユニット	Dユニット
児童発達支援管理責任者			
チーフ保育士		チーフ支援員	
サブチーフ保育士		サブチーフ支援員	
支援員	保育士	保育士	保育士
保育士	保育士	保育士	保育士
保育士	保育士	支援員	支援員
フリー保育士			

利用者配置 (A7名B7名C7名D5名) 合計26名

Aユニット			Bユニット			Cユニット			Dユニット		
1	男性	高3	1	女性	卒業	1	男性	高3	1	女性	中3
2	男性	高2	2	女性	高2	2	男性	中3	2	女性	中2
3	男性	高2	3	女性	高1	3	男性	高1	3	女性	中2
4	男性	高1	4	女性	中3	4	男性	高1	4	女性	中2
5	男性	高1	5	男性	小2	5	男性	高1	5	女性	小2
6	男性	中3	6	男性	小1	6	男性	中1	6		
7	男性	小4	7	男性	小1	7	男性	小4	7		
8	短期入所①		8	短期入所③		8	短期入所⑤		8	短期入所⑦	
9	短期入所②		9	短期入所④		9	短期入所⑥		9	短期入所⑧	

勤務体系①: 学校児 登校時

勤務体制	1F ABユニット				2F CDユニット			各フロア
	Aユニット	Bユニット	共通		Cユニット	Dユニット	共通	共通
	A⑩	B⑩	夜勤	日勤	C⑩	D⑩	宿直	女男1名ずつ
								児童部見守り
6:15	6:15	6:15			6:15	6:15		
7:00								
8:00								
9:00	9:15	9:15	9:00		9:15	9:15	9:00	
10:00				9:00			9:00	
16:00			15:30					
17:00	16:00	16:00			16:00	16:00		16:00
18:00				18:00				18:00
19:00								
20:00								
21:00	21:00	21:00			21:00	21:00		

勤務体系②: 学校児 休校時

勤務体制	1F ABユニット						2F CDユニット				
	Aユニット		Bユニット		共通		Cユニット		Dユニット		共通
	A㊟	A日	B㊟	B日	日2	夜勤	C㊟	C日	D㊟	D日	宿直
7:00	7:00		7:00				7:00		7:00		
8:00											
9:00						9:00					9:00
10:00	10:00		10:00				10:00		10:00		9:00
11:00		10:00		10:00	10:00			10:00		10:00	
15:00											
16:00						15:30					
16:00	16:00		16:00				16:00		16:00		
17:00											
18:00											
19:00		19:00		19:00	19:00			19:00		19:00	
20:00											
21:00	21:00		21:00				21:00		21:00		

2. 物の変化

○旧体制の時にはなかった生活用品が生活空間にある事で様々な経験を積めるようになりました。例えば、キッチンで料理をしたり、冷蔵庫の中にはアイスやジュースがあったり。

【生活用品】

○ベッド・学習机・IHコンロ・レンジ・オーブン・冷蔵庫・炊飯器・キッチン・レコーダー・洗濯機・乾燥機・食器・食洗機・ホットプレートなどなど・・・

3. 空間の変化

① 過ごす場所



旧体制では大部屋2~4人での生活。ユニットでは全員個室+リビング+ダイニングでの生活が中心。

② 入浴



大浴場で10人程度(毎日固定の時間)で入浴していたが、ユニットでは1~2人で16時~20時で好きな時間に入浴。また、好きな入浴剤等を入れるようになった。

③ 食事の場



食堂で100名同時間帯に食事を摂っていた。ダイニング7~10人。ご飯は毎日ユニットで炊いています。

新たな取り組みとして

①日用品の買い出し(H28. 9)

週末、日用品を地域のお店で購入を行う。

②調理の実施(H28. 9)

第2・4週にユニットごとに夕食作りを行う。

③お小遣い制の導入(H29. 1)

金銭価値の把握→**お金の大切さ・物の大切さ・就職への意識向上**

④誕生日会の実施(H29. 1)月1回→その都度

自尊心・自己肯定感を育てる。

「生まれてきてよかった」「ここにいていいんだ」等といった心を育む。

③子ども達・職員の変化

このような環境の変化で子ども達・職員にどのような変化が起きたか。

子ども達

【良い面】

① 日常が穏やかになった。

- ・少人数になる事で、朝の登校支援がゆっくりと**時間に余裕**をもって出来るようになった。
- ・下校後、子ども達と一緒に宿題をして遊ぶ時間が出来た。また、子どもと職員が日課を一緒に送れるようになった。(入浴、歯磨き、食事、ご飯の準備)
- ・子ども達が好きなことを自分の部屋で出来るようになった。(一人で過ごせる空間の確保。)

② 年長者が年少者と関わるようになった。

- ・高校生が小学生と関わり面倒を見るようになった。

③生活スキルの向上

- ・職員と一緒に生活を送る（入浴、歯磨き、食事、ご飯の準備）事で、スキルが付きやすくなった。

（一緒にしてみせる。）

- ・今まで経験できなかった料理などがいつでもできるようになった。朝パンを焼いたり、休日に夕食を作ったり。

- ・子ども達が以前より自主的に日課を行うようになってきた。

- ・コミュニケーション力が向上してきた。あいさつやお礼が言えるようになってきた。

⑤関係性の構築しやすさ

- ・関わりが密になる事で、職員が子どもの些細な成長に気づくようになった。
- ・外出がしやすくなった。買い物やドライブなどの頻度が増え楽しい時間を共有しやすくなった。

⑥選択肢の多様化

- ・様々なことを経験することでやりたい事・したい事の選択肢が幅が広がった。

例) 余暇の選択・料理の選択等

子ども達

【課題面】

- ①年少者が**良くも悪くも**年長者の影響を受ける。
※年少者が年長者の言葉遣いや言動。
- ②日課(必要な事)の意識付け。
日常的に必要な事を**自ら意識**して取り組めるようになる。
- ③日常・余暇の過ごし方
様々なことに対して経験が少なく、選択肢が狭い。
これからたくさんの経験を積み**自己決定**の幅をさらに広げて**自己決定**が出来るようになる。

職員の変化

①支援力について

【良い面】少人数配置での支援になるので、個々の支援力向上の意識がついてきた。子どもの「育ち」や「将来」を意識するようになってきた。



課題が明確になる事で向上心がでてきた。

【課題面】支援力の向上。職員が少人数配置での支援になるので職員の**技量が明確になる。**

※支援技術だけではなく生活スキルも重要

職員の変化

②子ども達との距離・過ごす時間

【良い面】

- ・関わる職員が固定されることで、関係が構築しやすくなる。**小さな変化に気付きやすい。**
- ・時間に余裕をもって子ども達と関われるようになった。一緒に宿題をしたり、お風呂に入ったり。外出等**楽しい時間を共有**する機会が増えた。

【課題面】

- ・子ども達との**距離が近すぎる事(特定の職員の関わりが増える)**で負担が増える事もある。
- ・時間を持って余す職員も出てきた。

子ども達の声

1. 今の生活はどうか？

- 一人部屋がうれしかった。
- 好きな時に部屋で休めて良い。
- ※一人になれる空間がある。
- 料理が出来てうれしい。
- 職員と遊べる時間が増えた。
- 昔より楽しい。(楽しいことが増えた)
- 机とベッドがあって嬉しい。



子ども達の声

2. 楽しい・良かったことはなんですか？

- 買い物に行けること。
- みんなで料理が出来ること。
- ゲームがいっぱいできるようになった。
- 職員と遊ぶ時間が増えた。
- 自分の部屋が出来た。
- いろんなテレビが見れること。



子ども達の声

3. 新しい生活で大変なこと?して欲しいことは?

- 小さい子が言う事をきかない。
- 新しいゲームがもっと欲しい。
- 旅行に行きたい。
- 部屋にテレビがない。
- 生き物(犬)を飼いたい。
- 時には大勢でご飯を食べたい。



職員の声①／保育士

小規模になり感じる事・・・

日々、やりがいを感じます。例えば、日々の支援を繰り返す中で子ども達の様々な面を見ることが出来ます。利用者の発達段階特有の成長を身近に見る事ができ、喜びを感じる事も多くあります。一方で障がい特性によるつまずきを見る機会も多くあります。そのたびに自身の学びを深めなければと毎回考えさせられます。



職員の声②／保育士

小規模になり感じる事・・・

買い物や調理、配膳、洗濯、お風呂掃除など、以前までは出来なかった経験も出来るようになり、子ども達も出来る事が増えてきているような気がします。ご飯の炊く前はどんな状態なのか、野菜を調理する前はどんな姿、形なのか、知らない子どももいました。いろいろな経験を積むことで知識も増えました。また買い物や調理を通して、食の大切さ、作ってもらっているという意識も出来、偏食が減少方向にあります。



④今後の課題

職員の課題

① 職員の支援力の向上

子ども達の成長は、一番身近に存在する職員の支援力(生活スキルを含む)が大きく影響される。障がいに対する専門知識と同様に生活スキルの向上が必要。

② 愛着形成

様々な経緯で施設生活を送る子ども達が自立(自信を持って)して生きていける基盤として愛着・信頼関係の構築・自己肯定感を形成できるようにする。

③生活をより家庭に近づけていく

建物だけではなく、日々の関わりや日常・余暇の過ごし方をより家庭に近づけていく。

施設で育った子ども、施設で長く働く職員は**施設生活**が**当たり前**になっている。可能な限り、一般的な家庭の当たり前を当たり前に行えるようにしていく。

施設生活全般の生活を一般的な家庭的に近づけることで**一般的な社会スキル**が身に付く。

運営面での課題

- ①情報の共有。少人数での配置の為、密に連絡・報告を行う必要性がある。
- ②支援体制を確保するために、職員の人数を増やす必要性がある。また、断続勤務が主となる。
- ③目の届きにくい場所が出来てくる。
※居室・浴室(安全面への配慮)
- ④一人の子どもが不穏な状態になると波及しやすい。
- ⑤短期入所利用者の(状態により)影響を受ける。
※同じユニット内で受け入れを行うため、生活用品等(洗剤・食べ物)にこだわりがあると一時的に保管場所を変更する必要がある。

まとめにかえて

入所理由や家庭状況を見て分かるように様々な経緯で施設生活を送る子ども達。

子ども達がこれからの長い人生を自立(自信を持って)して生きていける**基盤**として**愛着・信頼関係の構築・自己肯定感の形成**が必要だと思えます。

子ども達が安心・信頼して「**自分の身をゆだねられる養育者になる**」。一番身近に存在する大人(養育者)として子ども達と関わり、関係が構築されていけるようにしていく。そして、日々の生活の中で子ども達が**自信をもってそれぞれの将来(社会)に進めるように経験を積み重ねていく事**が大切である。

ご清聴ありがとうございました。

